

中学3年の6月ごろから、欠席がちになり、初め学校の生活が辛い、担任となじめない、友達がいない、友達がみんな、わたしを差別するなどの理由を申たて、登校しても、便所にかくれたり、だれもない部屋にいたりすることが多くなった。

高校に入学した当初、友だちができないうちは、通学していたが、5月ごろから、前記の徴候がますますひどくなり、欠席も多く、両親が説得すると学校へ行こうとするようすを見せるが、実際には、登校できないことが多くなった。

特に、1月に入ってからは、全く登校せず、ようやく進級はしたが、2年の4月からは、登校するようすがなく、家庭では、ちょっとした刺激にも過敏で、泣きわめき、自室にとじこもりがちであった。夜は、またねつかれず、不眠を訴え、逆に、朝は、いつまでも起きようとしないなど、怒り、ときには泣きわめくことがある。

(4) 資料・情報

① 生育歴

ア. 自然分娩、体重3,500g、特に異常はない。

イ. 父は婿で、義父の会社経営を手伝い、家庭内での発言力は弱い。

ウ. 幼小期から、母に密着し、中学3年まで母と同じ夜具でねていた。

エ. 小学6年、中学2年のとき、友達と外泊する機会があったが、どちらのときも夜中に泣きさわぎ、母が車で迎えに行きつれ帰った。

② 家族構成及び家族環境

ア. 父：49歳 義父の会社を専務として手伝っているが、婿であるので、職場でも、家庭でも、発言は少なく、神経症で入院の経験がある。

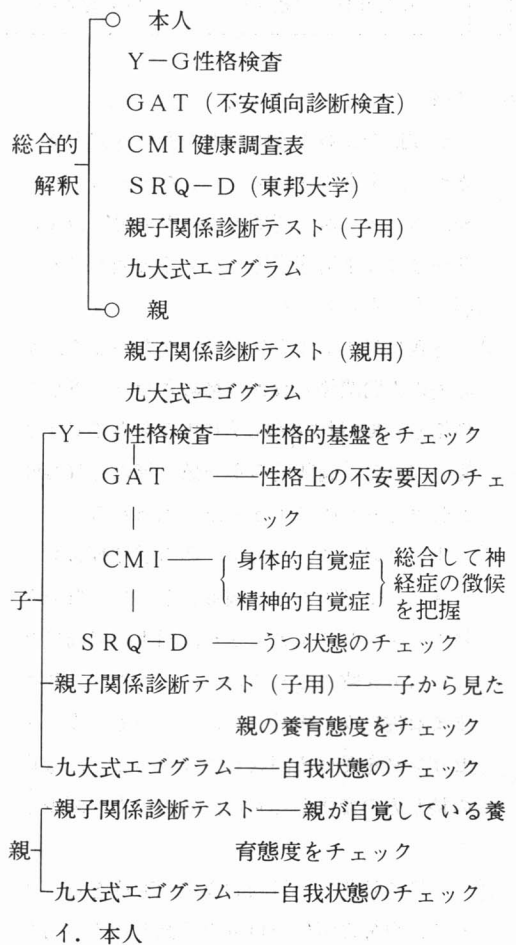
イ. 母：48歳 いわゆる家つき娘で、教養も高く、社交的で明るく、万事にリーダーシップを発揮するが、父の会社の手伝いをしているためいそがしく、子育てに十分かわれず、その反動での甘やかしが見られる。

ウ. 祖父：72歳 名家の出で、教育水準が高く、社長・家長として君臨しているが、細

かい点への配慮が少なく、一人よがりの点が多々見られる。

③ 諸検査・調査

ア. テスト・バッテリー：本人の問題行動を理解するために、性格、情緒、心身の健康度等を総合的に調べ、その中で問題が、本人をとりまく環境、特に、親の養育態度とどうかかわっているかを知るために、次のようなテスト・バッテリーを組み総合的な解釈を試みた。



イ. 本人

○ Y-G 性格検査：E型 情緒不安定・社会不適応・消極的内向であるが、気分変化があまり大きくない。因子の特徴を見ると抑うつ性・主観的・神経質・劣等感・非協調的・非活動的・社会的内向などが大きく、判断が主観的、ひとりよがり、口数が少なく、対人接触をきらい、